



ながた徳行

幸せを運ぶ
すべての人に
ながた徳行

白杵市議会議員の長田です。
四月に予定されている市議会議員選挙に四期目の挑戦をします。

一期目は地区後援会と白杵地区平和運動センターの支援をいただき無投票で当選することができました。二期目はフンドーキン労組・市職労組の皆さん、三期目は連合白津そして大分労の皆さんからご支援をいただきました。

これまで多くの皆さんと向き合いながら様々な意見や要望をいただき、皆さんのが何を求めているのか、自分がすることは何か、常にそういう気持ちを持ちながら議会を通じて皆さんのが市政に反映させるための取り組みをしてきました。

今回は白杵地区平和運動センター加盟労組の支援がなくなり大変厳しい選挙が予想されま

す。定数も十八人に対して二〇〇二十一人の立候補が考えられます。

昨年は豊後大野市市議選で原田健蔵さんが当選しました。数少ない社民党議員として、党員皆様の代表として絶対に勝利しなくてはなりません。

毎日、後援会の関係者、同級生そして支援者の皆さんと一緒に願いの挨拶まわりをしています。一生懸命、死に物狂いで頑張ります。党員皆様方の力強いご支援をどうぞよろしくお願い致します。

長田 徳行

地元後援会頑張ります！

県内の国会議員・県議会議員

市町村議員の多くが社民党から立憲へ移行するなか「社民党残留」の決断をされた三人の市議

(大分市・豊後大野市・白杵市)の一人、「ながた徳行」白杵市議会議員が四期目の闘いに挑みます。

四月二十四日の投開票で、残された選挙戦も多くはありません。平和運動センター加盟労

白杵市議会議員選挙 四月二十四日 ながた徳行の勝利に向けて！



先の衆議院選について思う

総選挙が終わり四か月が過ぎようとしています。各党ともに衆議院選の結果を踏まえ、夏の参議院選に向け始動しています。

先日、日刊ゲンダイの小塚さんの書き物を目にし、成程と思いました。

連合の衆議院選への対応について

昨年十月の大会で女性初の連合会長に芳野友子氏を選出しました。芳野氏は初めての記者会見で立憲と共産との「閣外協力」はありえない」とストレート

く組が社民党支持から立憲に持政党を変更したため、センターからの支援は受けられず、間中にも両党の共闘を批判しています。連合の、時期を見極めないと言える。支援団体ならばもう少し言葉を選んで発言すべきではと、小塚氏は指摘しています。

立憲比例議席大幅減について

立憲も国民民主も共に略称を「民主党」で届け出し、各地の投票所で「略称表記」に疑問が寄せられたと言っています。「民主党」と書かれた比例票は、それぞれの党の得票割合に応じて案分され、国民民主党の比例区での三議席増分は案分票の効果があったのではないかと言われています。

立憲は小選挙区で九議席増やしたものとの比例区で二十三議席減らした。勿論、案分票がどちらの党に有利になつたのかはわからないが、国民民主党の「野党共闘から一線を画し独自路線を進んだ」とが議席増なのか冷静に分析を

と小塚氏は言う。他の者の書き物を引用しましたが成程と思うのではないでしょか。裏面に続く

↙もう一つ引用
したいと思います。

政流
考
参院選へ
野党四分五烈

(大分合同新聞二月十二日)

政流【考】より抜粋

野党が四分五烈のまま候補を立てれば、自民党候補は優位に立つ。旧民主党が政権交代を果たせたのは、今の立憲民主党と国民党としてまとまっていたからだ。

旧民主党の支持基盤は連合だった。ところが、連合の政党支持は立憲と国民に分裂。しかも国民民主党は「都民ファーストの会」と連携協議を進めている。つまり分裂状態だ。そればかりか、連合は自民党との距離さえも縮めている。

連合の新年交歓会では、岸田文雄首相が、芳野友子連合会長に、「政治の安定の観点から与党にもご理解とご協力を賜りたい」と秋波を送った。こうなると、ものは全くな

↖方位に近い。高笑いが止まらないのは自民党だ。自民党の閣僚経験者は「連合の支持がばらばらになると、おのずと野党の分断に直結するから、自民党にとつて得策だ」とほくそえむ。

労働者の権利代弁する役割を掲げてきたのが連合ではなかつたか。非正規労働者が雇用者全体の四割弱に上る一方、連合が大企業の社員に軸足を置いてきた結果、弱者に訴える政党、れいわ新選組が台頭している。

「百点満点ではないが、ガソリン税減税の検討を岸田首相が

明言したことを踏まえ、予算案に賛成する

ことを決めた」と、国民の玉木代表が表明した。とんでもない話で、野党各党から一斉に非難の声が噴出した。

國民民主党的前原代表代行は、採決には病気を理由に欠席した。

立憲の泉代表は「野党とは言えない重大な選択で、大変残念だ」

共産党の小池書記長は「与党になります」という宣言に他ならないと批判。

維新の馬場共同代表は「国家予算と首相指名で

票を入れたらもう完全に与党」と指摘。

私たち社民党も全く同じ意見で、夏の参議選の勝利にむけて戦い方を慎重に考えねばなりません。

二月二十二日、衆議院本会議で二〇二二年度予算案が与党と国民民主党の賛成で可決された。

国民民主党
予算案賛成！

自民の高笑いが聞こえる

連合は、参院選は四七都道府県のうち三十二が一人区。その一議席を争う戦いで野党が勝つには共闘が不可欠。その鍵を握る連合の選択の当否が問われる。

以上、新聞記事からでした。



ヘイトの蔓延にヘトヘト～！



♪ヨシミが吠える～！

ネットの世界は自分と違う意見や考えの人に対して、匿名性をいいことにヘイトが蔓延している。有名な政治家に対してもかなり酷いものがあり見過ごせないものが多い。

社会が行き詰まると弱い立場の人たちに皺寄せが行き、今の自分を好きになれず、自己肯定感が低くなってしまう。その吐口として真っ当から言い返せない人に対して酷いことを言う。あってはならないことです。

社民党党首福島さんや大椿さんにも酷いヘイトがあります。このことは個人の問題ではなく社会のシステムが破綻してしまったことで、自分の未来に希望が持てないことに起因していると思います。

社民党は、そういうヘイトをする人も含めて守っていける政党であり続けたい。
わたしはそう思います。



党员・党友の登場です！

社民党全国連合常任幹事会は1月26日、参議選の比例代表に新人で東洋大学教授の金泰泳(キム・テヨン)井澤泰樹さん(58歳)を擁立することを決定しました。福島みづほ党首、大椿ゆうこ副党首に続き3人目の候補となりました。

2月24日、大分の知人に会いに来て、社民党大分県連合に挨拶にお伺いしたいとのことで来所されました。

キムさんは社会学部国際社会学科教授で日本国籍の在日コリアンです。出馬表明では「大切にされていると誰もが思える社会に！」「多様性を力に！」と決意を語った。

県連合の役員と意見交換する中で、社民党から立候補する理由の一つとして「外国人参政権に対して社民党が賛成の立場を明確にしているからです」と述べられました。

キムさん(中央)と
県連合の役員→

